

中学校 1 年学級活動

川下中学校

1 山口県独自の体験学習法「AFPY (Adventure Friendship Program in Yamaguchi)」を用いた「豊かな人間関係づくり」から

(1) 実施について

- ① 対象学年…中学 1 年生
- ② 日時…平成 21 年 6 月 18 日 (5 校時)

(2) 題材名 総合単元学習「こんなクラスになったらいいな」2-(3), 4-(3)

(3) 目標

- (感情) みんなで作り上げた目標と約束を守ろうと、自身の意識を高めることができる。
- (行動) クラスの一員として、楽しく意欲的に活動に参加することができる。
- (認知) 進むべきクラスの方角をイメージし、クラスの約束を理解することができる。

(4) 活動計画 (全 3 時間)

道徳… 1 自分たちが目指す、クラスのイメージをもつ。 (本時 1 / 1)

学活… 2 クラスのシンボル (Being) をつくり、クラスのテーマと約束を意識する。

(5) 本時案 (第 1 次 1 / 1)

- ① ねらい 全員が参加して「こんなクラスになったらいいな」というイメージを話し合うことで、クラス肯定的に作り上げていこうとする意識を高める。
- ② 準備物 A4 用紙、水性マーカー
- ③ 学習の展開

活動の内容	AFPY の視点
<p>1 意識のウォームアップをする。 「フィンガーソーセージ」</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"><p>視点を遠くにずらすことで見えてくるソーセージ (指の関節)。一度見えたらまた見えるようになる脳の不思議を体感する。</p></div> <p>「漢字遊び」</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"><p>「春」という漢字から「春の風景」を感じるイメージトレーニングをする。</p></div>	<ul style="list-style-type: none">・ ゲーム的要素の強い活動をすることで子どもたちの意識を活動に集中させ、また、意識してイメージ化することの大切さを意識させる。
<p>2 少人数のグループに分かれ、アクティビティ「リレー習字」の練習をする。</p>	<ul style="list-style-type: none">・ 少人数にすることで、全員が活動に参加できる環境をつくる。

「楽」という漢字を、誰も相手に干渉することなく、順番に一画ずつ書き入れていく。

書き順や色などの制限はなく、できあがった漢字そのものが、「楽」のイメージを表しているように工夫する。

3 少人数のグループで「こんなクラスになったらいいな」というイメージを話し合い、漢字一字で表現する。

- ・ 自分たちの漢字を一字決める。

4 決めた漢字を使って、練習（楽）と同じルールで「リレー習字」をする。

5 できあがった漢字を、それぞれの小グループ毎に発表し、この数種類の漢字がクラスの進むべきイメージになることを意識する。

- ・ アクティビティのやり方の練習である。
- ・ 自分の抱いていたイメージと違う展開になってもそれを受け入れ、次のメンバーに展開をゆだねる。メンバーを受け入れ、自分自身が安心して存在できる事を確認する場でもある。
- ・ 少人数にすることで、全員が活動に参加できる環境をつくる。
- ・ 目標とするクラスのイメージづくりをすることで、クラスの一員としてクラスを肯定的に作り上げていこうとする意識を高める。
- ・ 小グループ毎に考えた漢字を発表することで、クラスのイメージを共有する。

2 備考

AFPY の活動は、冒険（アドベンチャー）がベースの体験学習である。安全な冒険のためには、それを行う準備が必要で、グループのメンバー全員が同じ目的を持って進み始めることと、全員で作成し全員が納得した約束が不可欠である。

今回の活動は、ゲーム的要素の強い活動を通じて、楽しい雰囲気の中でクラスの進むべき方向をイメージできるように配慮している。子どもたちは、和気あいあいとした活動の中で自然にクラスのイメージを肯定的に考えるようになり、漢字一字の発表でそれぞれのイメージを共有することができる。

次時から学級活動としてさらに2時間かけてクラスのテーマ作りと約束作りを行い、Being というシンボルに仕上げるとおもしろい。そのシンボル（Being）は、これからの学級づくりで子どもたち全員が意識し、日々更新されていく。AFPY のゲームにとらわれず、日々の教育活動や学校行事などもふりかえりの対象となる。

AFPY は、クラスの間関係をより豊かにしていくために大変有効な教育活動であり、それにより個々が安心して学習に取り組める雰囲気をクラスに醸成することができる。

AFPY はその教育理念から、教科を越えた活動を展開することが可能であり、1年を通じて無理なく学級づくりに取り入れていくことができる。AFPY は多くある教育手法の一つであるため、これを実践しなくてはいけないというわけではなく、AFPY を知らずとも、子どもをその気にさせ、結果を出し、意識と行動を次につなげていく温かい教育を展開されている先生方も少なくない。